

2022（令和4）年度 学校マネジメントシート

三重県立上野高等学校（定時制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		○生徒：確かな学力の育成と進路希望を実現し、居場所のある安心安全な学校 ○保護者：一人ひとりを大切に、学力や社会性が身につく学校 ○中学校：一人ひとりの生徒の個性を生かし伸ばしていく学校 ○企業・事業主：基礎学力、社会性、協調性、コミュニケーション力など調和のとれた生徒を育成する学校	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 ○保護者：一人ひとりを大切に、した教育と進路実現 ○事業主：社会人としての教養やマナーの定着	連携する相手への要望・期待 ○保護者：教育活動への理解と協力 ○中学校：支援の必要な生徒への情報共有や連携した指導 ○地域の関係機関：生徒の実態理解と支援
(3) 前年度の学校関係者評価等		○中学校では生徒同士の関係を上手く作ることができずに学校に行けていなかった生徒が、高校に入学してから登校できている現状が非常にありがたい。 ○外国につながるのある生徒のためにサポーターを配置されている点ありがたい。 ○夜間定時制が、中学校に通えなかった生徒にとってやり直すチャンスとなっており、現在の取組を継続してもらいたい。	
(4) 現状と課題	教育活動	○不登校経験のある生徒や外国人生徒の増加に伴い、生徒同士や教職員に対するコミュニケーション能力の育成や日本語教育が必要である。 ○成人生徒の入学や他校からの転・編入生徒が増加する中、本校の教育にうまく適応できる環境の整備に取り組む必要がある。	
	学校運営等	○家庭における経済的な困窮や教育力の低下、家庭基盤の脆弱な生徒の増加に対応するために外部機関と連携した取組を進める必要がある。 ○多様化する生徒や保護者に対応するため、教職員の研修の機会を確保し、様々な研修を通して教職員の資質の向上に取り組む必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。

学校運営等	2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「卓越した魅力ある教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応などにより、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保している。」という状態を重点目標とする。
	3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、全教職員が本校定時制課程で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン１：多様化する生徒に対応する新しい授業形態の研究を進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化させます。				
授業改善	活動指標	○非常勤講師を含めたすべての教員が、ICTの活用やアクティブラーニングの視点を取り入れた学習指導を実施 ○「総合的な探究の時間」において、「動く」「作る」「調べる」の視点による、生徒が自主的に活動する授業展開 ○生徒の学ぶ喜びや、わかる楽しさを感じる授業展開 ○外国につながるの生徒に対して日本語習得支援	○非常勤講師を含めて、すべての教員が実施している。 ○班別に取り組みの成果を、文化祭を通じて発表することができ、目標を達成できた。 ○板書だけでなく、Chromebook や電子黒板を活用するなど、ICTによる見える化の授業を展開している。 ○「総合的な探究の時間」「言語活動」の授業において、日本語の指導を行った。また、担当者が日本語指導者養成研修に参加した。	◎
	成果指標	○生徒アンケートで「プロジェクトで画像などを映し出した授業はわかりやすい」が100% ○生徒アンケートにおいて、「総合的な探究の時間」における「取組満足度」95%以上 ○生徒アンケートで「授業がわかりやすい」「困難だと思うことでも、前向きに考えて挑戦している」が100% ○日本語習得支援に係る授業への参加者5名以上	○97.9% ○94.4% ○96.9% ○8名が参加	
改善課題				
各教室に設置されているプロジェクタやChromebook など、ICTを活用したアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を展開できた。今後は、活用する場面を増やすとともに、生徒の学力向上にもつなげていく必要がある。 「総合的な探究の時間」は、年々充実してきているが、生徒がより自主的に活動する授業にしていく必要がある。 外国籍生徒も増加傾向にあり、日本語指導の充実が必要である。				

項目		取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン2：生徒が自らの進路希望を実現するための力を高め、進路実現をサポートします。また、生徒の社会的自立に向けたキャリア教育の充実を図ります。					
進路実現	活動	○進路面談や進路ガイダンスを行うとともに、ハローワークや就職実現コーディネーターと連携した進路指導		○就職実現コーディネーターと連携し	

キャリア教育 の充実	指標	の実施 ○進路検討会の実施(年3回) ○「1年生:就労体験、2年生:自己理解と進路模索、3年生:進路選択のための具体的行動、4年生:進路決定とライフプラン的思考の構築」を通して生徒自らが進路を決定できるように取り組む。	進路指導を実施した。 ○職員会議の中で、生徒の進路希望について共有している。 ○集会などの時に、進路指導部より将来を見据えた進路決定に向けて啓発した。	
	成果 指標	○就職・進学を希望する生徒の就職・進学率 100% ○生徒アンケートで「働くこと」への理解度 80%	○希望者 100% (12月末) ○88%の生徒が大切さを理解している。	
改善課題				
入学時より計画的に進路意識を高める取り組みを行っている。4年生の就職・進学希望者には、夏季休業中に全職員で面接指導を行った。また、全学年を通し「働くこと」への理解度は88%と、進路学習を通じて、大切さは理解されている。 就職実現コーディネーターとの連携を密にすることにより、より効果的な進路指導を行う必要がある。				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン3：人権教育を通じて仲間づくり、他者と共生する心の育成に取り組み、生徒が安心して学べる環境をつくりまします。				
人権教育	活動指標	○人権学習会2回以上、人権講演会1回開催	○実施できた	
	成果指標	○生徒アンケートで人権教育満足度100% ○生徒アンケートで「安心して学習できる」100%	○100% ○92.3%	
改善課題				
学校生活全体を通じて、日常的な人権教育を推進する必要がある。 人権サークルの活動では、文化祭などでの発表の機会を設定するなど、生徒が主体となった取り組みも継続をしていく。				

(2) 学校運営

項目		取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン4：教育活動の内容を保護者や地域に積極的に情報発信します。					
情報発信	活動 指標	○学校通信「道標(みちしるべ)」、「ほけんだより」を発行し、ホームページにも掲載 ○生徒作成の新聞の発行 ○報道機関への資料提供1回以上		○月1回発行した ○発行せず ○情報提供を行った	※
	成果 指標	○保護者アンケートで「学校通信により、学校の様子がわかる」と回答した割合100%		○91.9%	
改善課題					
学校通信や保健便りを通して、学校の様子がわかると回答した保護者は92%と、情報発信として効果的であった。合わせてホームページへの掲載も継続していきたい。 報道機関への資料提供を行い、生徒の活躍の様子を地域へ情報発信できた。積極的な情報発信を継続していきたい。					

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン5：学校情報を積極的に公開・発信し、本校への理解を深める取組を行います。				
開かれた学校	活動 指標	○公開授業を2回、高校生活入門講座1回の開催	○公開授業は1回のみ実施(新型コロナウイルス感染症拡大のため1回中止) 高校生活入門講座は1回実施	
	成果 指標	○公開講座、高校生活入門講座の参加満足度100%	○80%(授業公開アンケート) ○100%(進路決定に役立った・入門講座アンケート)	
改善課題				
公開授業を通して、生徒の様子を保護者等に見ていただく機会を設定した。教員の相互評価や外部評価を活用し、授業改善につなげる取り組みの継続が必要である。 また、高校生活入門講座を充実させるとともに、中学生へ本校の魅力を継続して発信していく必要がある。				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン6：生徒面談の他、保護者を交えた三者面談を行い、保護者の願いや学校に対する要望などを聞き、教育活動に生かしていきます。				
保護者の声を聞く	活動指標	○保護者懇談会(三者面談)を年間2回開催	○1学期末、2学期末の2回実施	
	成果指標	○保護者アンケートで学校満足度 100%	○97.7%	
改善課題				
保護者懇談会は、保護者と担任とのよい意見交換の場とすることができた。保護者の学校に対する満足度は 97.7%と高いが、今後は保護者懇談会だけではなく、日頃から家庭との連携を密にし、学校と家庭との関係をより深めていくことも重要である。				

		取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン7:校内研修や校外研修など、幅広い研修機会を通じて教職員の専門性や指導力の向上を図り、教職員の働きがいを高めます。				
教職員の資質 向上	活動 指標	○職員研修会、他校との合同研修会の開催	○職員研修会を2回実施。他校との合同研修会は未実施(新型コロナウイルス感染症拡大のため)	
	成果 指標	○研修アンケートで「研修内容に対する満足度」100%	○57.1%	
改善課題				
新型コロナウイルス感染症拡大のため、他校との合同研修会は中止となった。 ICT活用や日本語指導教育についての校内研修を実施した。今後も課題に応じた校内研修を設定するとともに、校外研修も積極的に実施し、教育活動に生かしていくことが必要である。				

項目		取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン8:学校運営を円滑に進めるため、業務分担の見直しを行い、チームワーク力を高めるための具体的なマニュアル化を導入し、過重労働の緩和や総勤務時間の縮減に努めます。				
仕事の効率化	活動指標	○仕事の標準化(マニュアル化)を進めるとともに、担当者の創意工夫を生かす学校運営 ○定時退校日を月4日し、設定した日の定時に退校できた職員の割合 95%を目指す。 ○週 1 日以上 の休養日を設定できた部活動の割合 100%を目指す ○60 分以内に終了した会議の割合 100%を目指す。	○業務の組織化を継続するとともに、外部人材の活用を進めた。 ○定時退校日に定時退校できた職員の割合 100% ○すべての部活動で週 1 回以上の休養日を設定できた ○会議は、概ね 60 分程度で終了した	
	成果指標	○教職員満足度アンケートで「満足」「やや満足」の合計が 100%以上 ○一人当たりの月平均時間外労働時間 30 時間以下の職員の割合 100% ○一人当たりの年間休暇取得日数を 20 日 ○月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 ○年 360 時間を超える時間外労働者の人数0人	○85.7% ○100% ○20.98日 ○0人 ○0人	
改善課題				
定時制は教員数も少ないため、分掌や係の仕事を複数の教職員で共有・分担して、チームで業務を遂行することを一層定着させていく必要がある。 会議時間の見直しや業務の効率化推進し、過重労働の緩和や総勤務時間の縮減に向けて継続した取り組みが必要である。				

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○中学校でうまく人間関係がつかれず、学校にしづらかった生徒や外国人生徒に対して、丁寧で細やかに指導がされている。今後も継続して取組を進めてもらいたい。 ○社会性、協調性、コミュニケーション力等、調和のとれた生徒の育成を継続して行つてほしい。 ○行事に参加した際、大変和気あいあいとした雰囲気であったのをうれしく感じた。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○次期学習指導要領に掲げられた「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、更なるICTの活用に向けて、研修及び授業改善を積極的に行う。 ○生徒の自尊感情（自己肯定感）を高めるために、地域との連携及び外部人材を活用した支援をより一層充実させる。 ○外国人生徒のサポートに継続して取り組む。
学校運営についての改善策	○学校のビジョンに対して教職員間の共通理解をより一層図る。 ○業務の効率化を図り、総勤務時間の縮減に向けた取組を進める ○夜間定時制課程であるからこそ果たせる役割を担い続けるため、カリキュラムマネジメントを推進する。